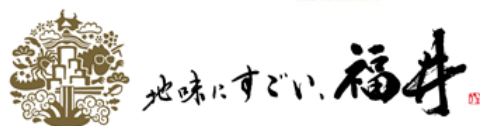


各関係機関の長 様

福井県農業試験場長

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。



連絡先 福井県農業試験場病害虫防除室
TEL 0776-54-9315
FAX 0776-54-5106
E-mail byogaichu-boujo@pref.fukui.lg.jp



福井県病害虫防除室 検索

令和7年農作物病害虫発生予察予報第6号

8月の気象概況

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

【水稲関係】

病害虫名 穂いもち

1 予報内容

発生時期：初発期 中晩生穂いもち 8月1半旬

被害程度：少発、ただし葉いもち多発圃場、山間、山沿い、常発地では中発

発生量：平年よりやや少なく、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 葉いもちの発生がないところでは穂揃期に1回薬剤を散布する。葉いもちの多発している圃場では、葉いもち病斑から穂への感染を防ぐため、上記に加えて出穂直前との2回薬剤を散布する。
- (2) 防除時期に降雨が続く場合は、雨のやみ間をみて、適期に防除を行う。
- (3) 耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連用は避ける。

病害虫名 紋枯病

1 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年より少ない

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 発生状況に大きな差が見られるので、よく圃場を観察し、中生品種で穂ばらみ期の発病株率が20%以上の場合や、倒伏が予想される圃場では、防除を行う。
- (2) 粉剤・液剤での防除は、穂ばらみ期～出穂直前と穂揃い期の2回行う。散布時には株元の病斑に薬剤が十分に付着するように散布する。
- (3) 早期に落水すると進展しやすいので、水管理に注意する。

病害虫名 ごま葉枯病（葉）

1 予報内容

発生時期：発生進展期は8月中旬頃

被害程度：少発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 高温により稲体の消耗が激しいことが予想されるため、出穂期以降に根腐れを起こさないように間断通水を行い、早期落水はしない。
- (2) 多発地では穂枯れの発生する恐れがあるので、穂ばらみ期～傾穂期に薬剤散布をする。

病害虫名 斑点米カメムシ類 ※病害虫発生予察注意報第2号（7月9日付）を発表中

1 予報内容

発生時期：成虫の本田侵入最盛期は7月5半旬
被害程度：少発、局多発
発生量：平年並み、前年よりやや多い

2 防除対策

- (1) 出穂期以降の草刈りは、カメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない。
- (2) 粉・液剤での防除は、穂揃期～乳熟期と糊熟初期の2回薬剤散布を行う。多発が予想される場合や発生が多い場合は、3回目の防除を収穫14～7日前に行う。ただし、収穫期に近い防除は、農薬使用基準（使用時期）に注意する。
- (3) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が違うので注意する。（詳細は防除指針参照）
- (4) カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、本田防除の際は畦畔も含めて防除する。
- (5) 水田内の雑草が多い圃場では、カメムシ類が定着し、斑点米の発生が多くなるので防除を徹底する。

病害虫名 コブノメイガ

1 予報内容

発生時期：幼虫加害最盛期は8月中旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 葉色が濃い水田に多く発生するので注意する。
- (2) 発生が多い場合は、葉が巻き始める時期を目安に防除する。

病害虫名 コバネイナゴ

1 予報内容

発生時期：幼虫加害最盛期は8月中旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) イナゴは広域に移動するので、発生が多い場合は、広域一斉に防除を行う。
- (2) 斑点米カメムシ類の防除により、本虫の併殺が可能である。

病害虫名 ツマグロヨコバイ

1 予報内容

発生時期：発生最盛期は8月中旬頃
被害程度：少発
発生量：平年よりやや少なく、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 早生刈り取り以降に中晩生で多くなる場合があるので注意する。
- (2) 斑点米カメムシ類の防除により、本虫の併殺が可能である。

病害虫名 セジロウンカ

1 予報内容

発生時期：加害盛期は8月中旬頃
被害程度：少発
発生量：平年より少なく、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 8月上旬に株当たり幼虫が30～40頭以上の場合は防除する。

(2) 薬剤は株元によくかかるように散布する。

病害虫名 トビイロウンカ

1 予報内容

被害程度：少発

発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 早期発見に努め、発生がみられたらただちに防除する。

病害虫名 イネアオムシ（フタオビコヤガ）第3世代

1 予報内容

発生時期：第3世代幼虫加害盛期は平年よりやや早い8月4半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年より多い

2 防除対策

(1) 直播田や熟期の遅い品種や作型、過繁茂のイネでは多発しやすいので注意する。

(2) 斑点米カメムシ類の防除により、本虫の併殺が可能である。

【ダイズ関係】

病害虫名 紫斑病

1 予報内容

発生時期：初発は8月1半旬頃

被害程度：少発

発生量：平年よりやや多く、前年より少ない

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 開花20～35日後に薬剤散布を行う。

(2) 耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連用は避ける。

病害虫名 ウコンノメイガ

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害盛期は平年並みの8月上旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年よりやや多い

2 防除対策

(1) 若齢幼虫期（8月初め）に薬剤を散布する。

(2) 山間、山沿いの圃場や生育旺盛で葉色の濃い圃場では、多発生する恐れがあるので、注意する。

病害虫名 シロイチモジマダラメイガ

1 予報内容

発生時期：第2世代成虫発生最盛期は平年並みの8月下旬

被害程度：少発

発生量：平年、前年並み

2 防除対策

(1) 若莢期から莢伸長期の8月中旬以降に防除する。

(2) 山間部や山沿いでは発生が多くなるので注意する。

(3) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

病害虫名 カメムシ類

1 予報内容

発生時期：圃場侵入最盛期は8月下旬

被害程度：少発、局多発

発生量：平年より多く、前年並み

2 防除対策

- (1) 圃場への侵入が多くなる子実肥大初期（8月下旬）以降に防除を行う。
- (2) 8月下旬の圃場侵入期に1圃場あたり100茎ずつ3カ所の見とり調査を行い、カメムシ類が平均して100茎あたり0.3頭以上いる場合は防除を行う。
- (3) ホソヘリカメムシが優占種である場合は、加害・分散能力が高いので注意する。
- (4) 薬剤は、莢に充分付着するように散布する。
- (5) 圃場周辺を除草する。

病害虫名 フタスジヒメハムシ

1 予報内容

発生時期：第2世代成虫発生最盛期は8月下旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年、前年並み

2 防除対策

- (1) 第2世代成虫の発生初期である8月中旬頃と発生最盛期である8月下旬頃の2回防除を基幹とする。
- (2) チアメトキサムの種子塗沫処理を行った圃場では、8月下旬の1回防除を行う。
- (3) 発生最盛期（8月下旬頃）において、1圃場あたり3カ所の払い落とし調査（1.5m、2条）を行い、1カ所あたりフタスジヒメハムシ成虫が70頭以上払い落とされた場合は防除を行う。
- (4) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

【野菜関係】

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発生量	
スイカ	つる枯病		少 発	平年：並み 前年：やや多	1)圃場排水に努める。 2)過繁茂を避け、通風をよくする。 3)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 4)同一系統薬剤の連用は避ける。
	炭 疽 病		少 発	平年：並み 前年：並み	1)圃場排水に努める。 2)過繁茂を避け、通風をよくする。 3)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 4)同一系統薬剤の連用は避ける。
	疫 病		少 発	平年：並み 前年：やや多	1)圃場排水に努める。 2)過繁茂を避け、通風をよくする。 3)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 4)同一系統薬剤の連用は避ける。
キュウリ スイカ	うどんこ病		少 発	平年：並み 前年：並み	1)多肥栽培を行わず、適正な施肥管理を行う。 2)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 3)同一系統薬剤の連用は避ける。
全 般	アブラムシ類		少 発	平年：やや多 前年：やや多	1)同一系統薬剤の連用は避ける。
	ハダニ類		少 発 (局中発)	平年：並み 前年：やや少	1)同一系統薬剤の連用は避ける。
	ハスモン ヨ ト ウ	加害初期： 8月上旬	少 発 (局中発)	平年：やや少 前年：やや多	1)同一系統薬剤の連用は避ける。
	ネキリムシ類	加害盛期： 8月上旬	少 発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)同一系統薬剤の連用は避ける。
ウ リ 類	ウリハムシ	成虫発生 最盛期： 8月中旬	少 発	平年：やや少 前年：やや少	1)薬剤は葉の裏もかかるように、 丁寧に散布する。

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
アブラナ科 野 菜	キスジノ ミハムシ	成虫発生 盛期： 9月上旬	少 発	平年：やや少 前年：並み	1) 薬剤は葉の裏もかかるように、 丁寧に散布する。
	ハイマダラ ノメイガ (ダイコン シンクイムシ)	加害初期： 8月中旬	少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1) 薬剤は新芽にもかかるように、 丁寧に散布する。
ナ ス ピーマン キュウリ ホウレンソウ	ミナミキロ アザミウマ		少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1) 本虫は寄主範囲が広い。
ト マ ト ナ ス ピーマン	オオタバコガ		少 発 (局中発)	平年：やや少 前年：やや少	1) 果実に食入するため、若齢期に 防除を徹底する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナ シ	黒 星 病		少 発	平年：並み 前年：やや少	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋却等 適切に処理する。
	黒 斑 病		少 発	平年：並み 前年：並み	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋却等 適切に処理する。
	ハダニ類		少 発 (局多発)	平年：並み 前年：並み	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。
ナ シ カ キ	カメムシ類		少 発 (局多発)	平年：やや少 前年：少	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。 2) 発生初期の薬剤散布を徹底する。 3) 加害が長期的に継続するため、防 除後も飛来がみられるようなら、 追加で防除を行う。

[花き関係]

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キ ク	アブラムシ類		少 発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。 2) 圃場周辺の除草に努める。
	オオタバコガ		少 発	平年：並み 前年：やや多	1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2) 同一系統薬剤の連用を避ける。
	ハダニ類	加害盛期： 8月上旬	少 発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。